

(東浦町)

市町村の 基本情報	学校数	小学校7校、中学校3校		
	地域学校協働活動推進員等の配置	統括的な地域学校協働活動推進員		1人
		地域学校協働活動推進員		9人
	状況	統括コーディネーター		0人
		地域コーディネーター		0人
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小 7校	中 3校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 7校	中 3校	



(活動の実際)

藤江小学校の取組 「竹の学習」

学校周辺に竹林が広がり、3年生が毎年「竹の学習」を行っている。

(目的)

- ・講師として地域の方々が授業に関わることで、児童が身近な竹に親しみをもち、ひいては地域を愛する心の育成につながる。
- ・竹の学習を継続的に実施することで、地域の方と教員が「顔の見え関係性」を構築し、地域と学校との連携・協働を推進する。

(活動内容)

- ・17人の地域ボランティアが講師となって3講座を実施

- ①竹割り体験(12か所) ②竹切り体験(12か所)
- ③半割竹のボール転がし遊び(8か所)

- ・竹の性質や特徴に関するクイズの実施
- ・竹製品や身近な竹を使った道具についての説明

(活動で意識していること)

- ・講師を複数人配置し、児童の安全確保に努めている。
- ・グループを少人数にすることで待ち時間をなくし、体験活動に集中する時間を増やしている。
- ・前年度の反省を生かして用意する竹を細くするなど、児童が楽しく活動しやすいように改善している。
- ・半割竹のボール転がしでは装置の組み立ての段階から児童に参加させ、講師の説明を最小限にして児童の創意工夫を生かすよう意識している。

(推進員の活動の流れ)

- ①学校より竹の学習の依頼を受ける。
- ②チームふじまる(藤江地区の地元有志ボランティア)の代表の方と日程調整し、学年の教員と打ち合わせる。
- ③チームふじまるの参加者募集および学校への報告をする。
- ④活動内容の検討、講師の役割分担をする。
- ⑤準備、活動時、片付けの際の全体掌握をする。
- ⑥活動後、講師の反省点から次年度への課題を抽出する。

(◎成果と●課題)

- ◎担当学年の教員は毎年変わるが、知識や経験豊富な地域の方々が主体的に竹の学習を行ってくれることで、教員の負担軽減につながった。
- ◎竹の学習(6月)が単発的なイベントに終わらず、その後も地域の方々が継続的に関わることで、学習発表会(11月)につながり、学習成果を保護者や地域、他学年の児童に発表して、竹について伝えることができた。
- ボランティア活動に参加する地域の方々の高齢化がすすみ、若い世代の担い手が少ない。
- 児童が竹の学習に興味深く取り組むための授業づくりや学習効果を高めるための材料の工夫が難しい。

(関係者の声)

- ・事前の計画や準備が大変であったが、児童の熱心に取り組む姿を見てやってよかったと思う。(地域の方)
- ・体験では目を輝かせ取り組む児童の姿が印象的だった。児童にはとても心に残る時間になった。(教員)
- ・楽しく活動できた。地域の方々に感謝している。今の2年生にもぜひやってあげてほしい。(児童)
- ・チームふじまるの皆さんみたいに、竹についてもっと詳しくなって、竹博士になりたいと思う。(児童)